

市立

いちかわ

# 自然博物館だより

令和2年(2020年)

4-5月号

(通巻 187号)

2020年度

あたりまえの風景に  
あたりまえの生き物に  
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

エゴノキ

市川市域では、雑木林を構成する主要樹種のひとつです。知名度はイマイチですが、満開の白花は見事です。

- P1 ☀️ いきもの写真館  
エゴノキ
- P2 / 3 ☀️ センサーカメラの記録  
2019年3月～5月
- P4 ☀️ いちかわの植物 30年  
アカネスミレとヒメスミレ

- P5 ☀️ 街かど自然探訪  
妙典・階段護岸から干潟へ
- ☀️ くすのきのあるバス通りから  
早い春の訪れ
- P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題  
ダンゴムシの飼育展示
- P7 ☀️ わたしの観察ノート  
1月～2月の記録
- P8 ☀️ 自然博物館 利用案内

博物館だよりはホームページでもご覧いただけます。



# センサーカメラの記録

(2019年3月～5月)

自然博物館では、長田谷津（大町公園自然観察園）の斜面林内にセンサーカメラ（自動撮影装置）を2か所、設置しています。1か所は人工的に作った水場、もう1か所は「けもの道」です。記録は動画ですが、ここでは静止画像を切り取って紹介していきます。



ヤマガラ

(2019年5月15日 9時38分)

水場で水を飲み、水浴びをした。

別の日、シジュウカラと遭遇した時はシジュウカラを威嚇して追い払った。シジュウカラとの力関係では、上位に位置しているようだ。



オオタカ

(2019年3月19日 16時53分)

はじめて水場に来た時のようす。

警戒しながら、おそろおそろ水場に入った。左脚の指が欠損していて、以降、個体識別することができた。



**ノウサギ**

(2019年3月8日 21時10分)

夜間のため赤外線撮影。

餌を探るようなそぶりをしながら、けもの道を通り抜けていった。



**ハクビシン**

(2019年5月19日 20時41分)

夜間のため赤外線撮影。

けもの道に現れた動物のうちでは、ハクビシンは倒木に対するこだわりが強く、倒木上を歩行する場面が多かった。

**3月から5月の撮影記録(種名、西暦の下2桁と月日)**

**哺乳類**

タヌキ:190311,190313,190323,190324,190405,190412,190414,190423,190424,190429,190517,190525,190526,190527,190528,190529,190530

ネコ:190401

ノウサギ:190308,190320

ハクビシン:190307,190405,190406,190407,190505,190519,190521

**鳥類**

アカハラ:190409

オオタカ:190319,190320,190322,190413,190417,190510,190511,190512,190513,190516,190517,190524,190525,190526,190527,190528,190530,190531

カケス:190320,190401,190404

キビタキ:190502

クロツグミ:190423

シジュウカラ:190528

シロハラ:190406,190407,190420

トラツグミ:190326

ハシブトガラス:190318,190320

ヒヨドリ:190330,190525,190526,190527,190530

ヤマガラ:190515,190525,190526,190527,190528,190529

**爬虫類**

アオダイショウ:190531

## いちかわの植物 30 年

自然博物館の 30 年あまりの活動で得られた写真を用いて  
市川市域の植物を紹介します。

### アカネスミレとヒメスミレ

「すみれ」という言葉は知っていても、実際の植物を見てどれがスミレなのか判らない、そういう人が確実に増えているように感じます。野外で案内していても、それがスミレ類という前提で説明すると、しっくりいかないことがあります。

アカネスミレとヒメスミレは、いずれも市内の柏井町で出会いました。博物館の開館準備にかかわり始めたころ、市域の自然の全体像を知るために、時間があればカメラを持って市域のあちこちに出かけました。当時の柏井町は今よりも雑木林が多くあり、林には常緑樹はまだ少なく、全体に明るい景観でした。その林の縁で出会ったのがアカネスミレ、砂利敷きの小道で出会ったのがヒメスミレでした。図鑑ではアカネスミレは丘陵地に多く、ヒメスミレは人家周辺、アスファルトの隙間などから生える、とされています。ぴったりの環境でした。

スミレの仲間は、小さな野草です。人里では都市化により、また山間部でも山林の荒廃などにより減少しています。アカネスミレもヒメスミレも、市域では消えてしまったかもしれません。一方で、スミレ（種としての）やノジスミレは、市街地に再進出しています。見かける頻度が増えました。ですが、場所によってはいねいにむしり取られてしまいます。こちらはがっかりですが、作業してくれた人は、それがスミレとわからないのだと解釈するようにしています。



アカネスミレ(1986年4月24日)  
柏井町2丁目。その後、長田谷津の斜面でも確認しましたが、もうありません。



ヒメスミレ(1988年4月22日)  
柏井町2丁目。花がなければ、確かに砂利の隙間の雑草ですね。



# 街かど自然探訪

おじゃまします!

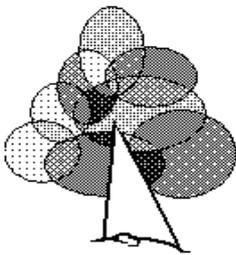
みょうでん

## 妙典・階段護岸から干潟へ

妙典小学校の前から土手を越え、東西線の線路をくぐり、江戸川放水路を少し下流に向かいます。そこから数百メートル、陸と海の境は、階段状の護岸になっています。他の場所のようにヨシの茂みに遮られることなく、干潟に降りることができます。階段の一段の幅は広く高さも低いので、小さな子どもでも、たやすくアプローチすることができます。今はまだ静かですが、5月の連休の頃になれば、カニでいっぱい賑やかな干潟になります。



△ 干潮時の風景、満潮時には階段護岸まで満ちてきます。階段護岸は、乾いたコンクリートに腰かけて、ちょっと休憩するのも便利です。干潟にはナイフのように切れる牡蠣殻がたくさんあるので、手袋に長靴のスタイルだと安心です。



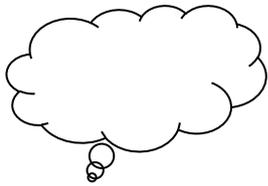
くすのきのあるバス通りから No.129

## 早い春の訪れ

2月23日の昼間、自宅の庭をハクビシンが横切りました。裏庭に追い詰め写真を撮ろうとしましたが、逃げられました。3月14日、雪が降りました。カンヒザクラとジンチョウゲが、遅い開花のような気がします。ほかの花は2週間早いようです。すでにカンザクラ、カワヅザクラ、ハクモクレンは終わりました。春分の日三連休の20度越えの暖かさで、真間川のソメイヨシノや我が家のオオシマザクラ?も咲いています。ユリカモメが根本水門につながる真間川にも、餌を求めてたくさん来ています。街路樹のクスノキは最

近剪定されましたが、葛飾八幡では新芽が伸び、古い葉を落としているようです。住宅地を歩いていたら、ウグイスが鳴きました。こんもりとした植え込みの中で「チピチピチピ」とつぶやくような鳴き声はメジロでした。庭木のシラカバの花が垂れ下がっていました。八幡6丁目のバス停のそばのお屋敷に、建築の予定の看板があります。カエルのミイラが座った形で道の横にありました。毎年このあたりのカエルはお屋敷の池に集うようですが、今後はどうなることでしょう。

(M. M.)



# 展示室



## 飼育生物の話題



身近にいるダンゴムシはオカダンゴムシという種類です。子どもたちに人気の生き物ですが、飼育展示は意外に難問です。以前、シャーレに枯れ葉（餌であり隠れ場所でもある）を入れて展示しましたが、すぐ枯れ葉の下に隠れるし、湿らせるのでシャーレが曇って見えなくなるしで、あまり効果は上がりませんでした。

本格的にチャレンジしたのは、在来種のダンゴムシが博物館のまわりにいることがわかってからでした。オカダンゴムシは地中海地域原産の外来種です。それに対して、博物館のまわりにはトウキョウコシビロダンゴムシという小型の在来種が生息しています。似た種類を並べて見せるのは展示の王道です。そこから、試行錯誤がはじまりました。

ダンゴムシの飼育展示で最大の課題は、隠れてしまうことでした。なので、その習性を逆手にとりました。飼育ケースに昆虫マットを敷き、全体としては乾燥させておきます。そして一部だけを湿らせ、その上にカットした小さな丸木を置きました。ケースのふたは開けておきます。自由に丸木をどかしてもらおうと、その下に写真のようにダンゴムシが密集しています。このケースを2つ並べることで、2種類の大きさの違いなどが、よくわかるようになりました。ちょっと自慢の展示です。

# わたしの 観察ノート

## ◆長田谷津より

- ・園路のすぐ脇の枝にモズのはやにえがありました(1/4)。獲物はコバネイナゴでした。
- ・昨日(1月18日)のみぞれ混じりの雨が引き金となったようで、本日ニホンアカガエルの卵塊を、全部で6個確認しました。
- ・エナガが2羽で行動していました(1/19)。おそらくつがいだと思われます。今冬は暖かいので、もう繁殖のスイッチが入っているのかもしれませんが。  
以上 稲村優一(自然博物館)
- ・毎日散策に来ている人が立ち止まって見ていた方向には、ふきのとうが顔を出していました(2/13)。そろそろと思って、毎日、楽しみにしていたそうです。春の兆しって、見つけると楽しいですね。
- ・去年はゼロだったアオカワモヅクの大きな株を見つけました(2/20)。水中の枯れ枝に生えていました。去年は、その前の年に中央水路を板張りにした作業の影響で発生しなかったと思います。水路を掘ったために、水中の枯れ枝や枯れ茎が無くなったからです。今年は、残っていた胞子が付着した枝に株ができたようです。
- ・コブシの花が、少しだけ咲いていました(2/23)。過去にも2月に咲いた記録はありますが、ふつうは3月です。

以上 金子謙一(自然博物館)

## ◆大町より

- ・朝の出勤時、動植物園駐車場のベンチの横でアオジがパンのかけらを食べていました(1/12)。落ちたパンや弁当を狙ってスズメが来ることはよくありますが、アオジが飛来してパンを食べている様子は初めて見ました。

稲村優一

## ◆南八幡より

- ・空地一面にホトケノザが生えていました。早々に花が咲いている株もありました(1/31)。ところどころで立ち上がって花を咲かせているナズナも目立ちました。ホトケノザの花で、一面ピンク色になる季節が待ち遠しいです。

宮橋美弥子(自然博物館)

## ◆市内某所より

- ・林にあった、高さ50cm足らずの朽ちた切り株を崩すと、中から大きなカブトムシの幼虫が何匹も出てきました(2/22)。切り株でカブトムシというのは初めてでしたが、切り株を倒すと、その下の土の中にも何匹もいました。地上の腐葉土から切り株まで連続した環境になった結果、切り株でカブトムシの幼虫が生息していたと思われます。見つけた子どもたちは大喜びでした。

金子謙一

暖かく穏やかな冬になりました。雨も適度に降ります。水が氷るような冷え込んだ朝は何日もありませんでした。



# 自然博物館 利用案内



## 開館時間

午前9時30分～午後4時30分（入館は4時まで）

## 休館日

- ・毎週月曜日（ただし月曜日が休日の場合は翌日）
- ・年末年始
- ・展示室整備のための休館(令和3年2月頃を予定)

## 交通案内

○北総線「大町駅」より

自然観察園入口まで 徒歩5分

観察園を抜けて 徒歩25分

○JR武蔵野線「市川大野」駅より

コミュニティバス往復ルート「松飛台駅」行き

「動植物園」下車(1日数本運行)

○JR総武線「本八幡」駅北口、

JR武蔵野線「市川大野」駅より

京成バス「動植物園」行き

終点下車(土休日のみ運行)

○お車の場合は、

動植物園入口の駐車場

(普通車500円)を

ご利用ください。



第33巻 第1号（通巻第187号）

令和2年4月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館  
(市川市教育委員会生涯学習部)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477